



白山神社と白竜退治の伝説

文 原 美千代



白山神社は、富士山、立山とともに日本三霊山の一つ白山の神を祀る神社ですが、ここ池田町にもふれあい街道沿いの小寺の地に、伊邪那岐命を祀った白山神社があります。南北朝時代初めに創建されましたが、後、小寺山城に居住した稲葉塩塵も白山神社を深く信仰しました。

鳥居をくぐり、拝殿の後ろにまわる社が並んでいます。中央が白山神社、

その左手に八幡神社と豊明明神、右手に神明神社と御鋤神社が祀られています。又、それらと離れて南向きに、御嬉神社があります。この御嬉神社は里宮で、本宮はここから徳谷（オーレシ谷）沿いに林道を進み、山道を20分程登った池田山山中にあります。御嬉神社に祀られているのは、藤原氏の祖、藤原鎌足で、子孫である、藤原秀郷にまつわる伝説が残っています。



藤原秀郷（倭藤太）白竜退治

倭藤太は鎌足の子孫で、大ムカデ退治の英雄として『太平記』に描かれている武人です。

池田町の伝説では藤太が退治したのは白竜で、それはこんなお話…。

昔、池田庄小池村（現山洞）に大きな池があり、この池に白竜が棲みつき、

度々村里へ現れては荒らし回るので、百姓たちが恐れ、領主の野原勘解由常依は困り果てていました。

そこで常依は母方の祖父で武勇の誉れ高い倭藤太に白竜退治を頼みます。小池村にやって来た藤太は祖先、鎌足の像を祀り加護を祈ると、白竜めがけて一の矢、二の矢、三の矢と射かけ、見事退治しました。谷間でこの様子を見ていた村人は、声を上げて喜び、この谷を「大嬉し谷」「オーレシ谷」と呼ぶようになり、鎌足を祀る「御嬉神社」を建立したので、村はいつまでも栄えたということです。

（野原家伝承）



▲それぞれの祠に白竜の姿が刻まれています

編集 池田町観光ボランティアガイド協会